

【特別企画】

# 新生シマンテックのビジョンと企業戦略

2005年7月2日付けで米国における合併を完了した新生シマンテックが、日本市場においても一体となった取組みを開始した。8月1日には、合併後初来日となるCEOのジョン トンプソン氏を迎えて「新生シマンテック リーダーシップカンファレンス」を開催したのに続き、8月10日には「シマンテック エンジニアリング センター (JEC)」を開設した。本稿では、リーダーシップカンファレンスの模様をレポートするとともに、JEC開設で来日したマーク プレグマンCTOへのインタビュー、さらにはJECの概要を紹介する。

「新生シマンテック リーダーシップカンファレンス」で、  
ジョン トンプソンCEO が合併後初来日

## リーダー企業同士の大型合併で、IT インフラのビジネスインフラ化を支援

シマンテックとベリタスソフトウェアの大型合併が、米国において2005年7月2日付けで完了。これを受けて7月7日に今回の合併に伴う日本における今後のスケジュールや戦略が発表された。日本国内においては現在、法人統合の作業が進められており、統合完了後にはシマンテックの杉山隆弘代表取締役社長が代表取締役社長に就任し、ベリタスソフトウェアの木村裕之代表取締役社長が代表取締役副社長 エンタープライズセールス担当に就任する予定である。現時点では国内においては別法人だが、両社は、すでに一体となった事業を展開しており、ユーザー企業やパートナー企業に向けて具体的な新生シマンテックのビジョンと企業戦略を示したのが8月1日に開催された「新生シマンテック リーダーシップカンファレンス」だ。同カンファレンスでは、合併後初めての来日となるシマンテックコーポ

レーションのジョン トンプソン会長兼CEOが、直接日本のユーザーやパートナー企業に向けて新生シマンテックのビジョンと企業戦略を語った。

会場には用意した椅子が足りなくなるほど大勢のユーザーやパートナー企業が参集した。カンファレンスの冒頭、挨拶に立ったシマンテックの杉山隆弘社長は、情報セキュリティ分野とストレージ分野のリーダー企業がひとつとなった新生シマンテックは、セキュリティとアベイラビリティ(可用性)のソリューションを融合することにより、企業のIT基盤そのものをより堅牢なものとし、企業にとって、最も重要な資産である情報の保護と管理をより低コストに、そしてより効率的に実現するためのソリューションを提供していくことを表明。合わせて、「統合から1ヶ月経ち、われわれのチェアマンでありCEOの



シマンテック  
代表取締役社長  
杉山 隆弘氏



ベリタスソフトウェア(株)  
シマンテック コーポレーション  
代表取締役社長 木村 裕之氏

ジョン トンプソンが最初に選んだ海外の訪問先が日本。シマンテックが日本をどれだけ重要視しているかを考えると、身の引き締まる思いだ。新生シマンテックが日本においてどのような戦略を実行し、どのように展開していくのか、その方向付けについてジョン トンプソンから直接伝えることができるのは、最大の喜び」と述べるとともに、今後統合されたシマンテックは、パートナー企業、ユーザー企業のビジネスの継続と発展へ向けたソリューションの提供やインフラの構築をより支援していくと訴えた。

続いて登壇したベリタスソフトウ

エア、シマンテックコーポレーションの木村裕之社長は、同社がこの2年間、ワールドワイドの伸びをはるかに超えて成長することができ、今回もう一段大きな飛躍の時を迎えたとしたうえで、情報セキュリティと情報アベイラビリティの融合により、ITインフラを本当に経営に役立つビジネスインフラにしていくことを積極的に支援していくことを強調。「日本の新生シマンテックにおいて、私はエンタープライズ系のビジネス全般を担うこととなった。これは、これまでのベリタスのビジネス全体と、シマンテックのエンタープライズのビジネスを統合したエンタープライズビジネスユニットで、本日がまさにそのスタート。ITインフラを本当に経営に役立つビジネスインフラにしていきたいという強い思いのもと、新生シマンテックは大きく動いていく。杉山社長とともに、グローバルの良い点、ローカルの良い点を兼ね合わせた、日本に根付いた会社にしていきたいと強く思っている」と抱負を述べた。

### 業界リーダーが推進する 情報セキュリティと 情報アベイラビリティの融合

合併完了後、最初の海外訪問地として日本を選んだジョン トンプソン会長兼CEOは、講演の中で、2003年の初頭に世界中を震撼させたSQL Slammer（スラマー）が惹き起こした脅威を例に挙げ、10分間で世界中のWindowsシステムの90%に感染するという攻撃力と8.5秒ごとに2倍の速度で増殖を繰り返す瞬くまに感染が大規模に拡大していった感染力を指摘し、セキュリティへの対応は、企業がビジネスを継続する上で避けては通れない課題と語った。また同氏は、「セキュリティを確保しても、アベイラビリティを維持できなければ意味がない。またその反対でもだめだ。この2つがあって初めてInformation Integrity（情報の完全性）が確立される。そのためには、ヘテロジニアスな環境において、さまざまな脅威を緩和し、攻撃を防ぎ、同時に災害や障害などによるデータの損失を防ぐResilient（弾力性のある）な

ITインフラを構築しなければならない。シマンテックとベリタスソフトウェア、それぞれの業界でリーダーとしての地位を確立している2社の融合によって、他には類のないソリューションを提供することができる」と合併の



新生シマンテックのビジョンを熱く語る  
シマンテックコーポレーション 会長兼CEO  
ジョン トンプソン氏

意義を強調。複雑化するIT環境を、コストを増加することなく、さらにパフォーマンスを高めリスクを緩和する3つのフォーカスエリアとして、ITマネジメントプロセスの自動化と弾力性のあるITインフラの構築、Eメールのエンドツーエンドのコンプライアンスソリューションの実現、世界標準や世界各国のコンプライアンスへの迅速な対応を提示した。

同氏は、「インターネットバブルが崩壊しても唯一、シマンテックとベリタスソフトウェアの2社だけが収益を伸ばしていた。これまで成功裡に事業を展開してきた2つのソフトウェア会社が一緒になるというのは前例のないことだ。私どもは、私どもの価値のすべてをパートナーの皆様を介して提供することによって、信頼を勝ち得てきた。革新的なテクノロジー・ソリューションとサービスの提供を通じて、新生シマンテックはさらなる拡大、成功を遂

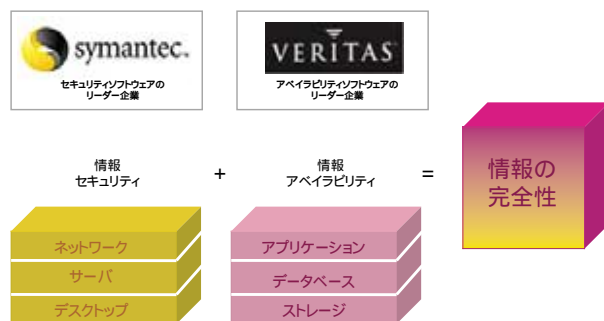


図1 業界リーダーが推進する情報セキュリティと  
情報アベイラビリティの融合

げていくと確信している」と述べ、講演を終えた。

## 日本法人は「7人の侍」が牽引

カンファレンス終了を前に、再び登壇した杉山社長は、「インターネットを中心にビジネスの多くがITに依存する現在、情報はグローバル経済で流通する通貨と同様の価値をもつ。この新しい貨幣のセキュリティの確保とアベイラビリティの維持を同時に保証するソリューションの提供に向け、新生シマンテックはよりイノベティブに挑戦する」と決意を述べた。また、日本国内において、従来のマーケットのカバー範囲をより広く、より深く実行するために新しい体制を構築し、新生シマンテックとしてすでに動き出している

ことを強調し、新体制を支えるメンバーを紹介した。

まず最初に紹介されたのが、シンガポールから駆けつけたアジアパシフィック/日本地域担当 バイスプレジデントであるスティーブ レオナルド氏だ。アジアパシフィックと日本地域の全体を統括する同氏は、企業が抱える3つの課題（ITコストの削減、ITマネジメントプロセスの複雑性の緩和、コンプライアンス要件の遵守）解決に向け、積極的に取り組んでいくと述べるとともに、ジョン トンプソンCEOがいうセキュリティとアベイラビリティの融合に改めて言及し、「セキュリティとアベイラビリティを適切なスピードで、適切な方法で提供できるのが新生シマンテック。日本市場において今後も積極的な投資を継続して



シマンテック コーポレーション  
アジアパシフィック/日本地域担当 VP  
スティーブ レオナルド氏

いく」と訴えた。

続いて、新生シマンテックのエンタープライズ部門営業のトップとなるベリタスソフトウェアの木村社長を含め6人の営業トップを紹介。杉山社長は、同氏を含めた7人の営業トップ体制を黒澤映画に例え、「7人の侍」が日本法人をリードしていくと述べ、カンファレンスを終えた。

シマンテック コーポレーション マーク プレグマンCTOインタビュー

## シマンテックとベリタスの共有技術を核に新しい情報の完全性を実現するためのソリューションを提供

### 統合による2つの革新性

シマンテックのセキュリティ技術とベリタスが従来提唱していたユーティリティコンピューティング技術が融合することで、どのような革新的な次世代製品が提供できると考えていますか。

革新性という面で、2つの点があげられます。一つは、統合によって

生まれる革新的な技術による製品です。例えば、E-mailの環境を対象としたソリューションです。アンチスパム技術とアーカイビング技術、Eメールの高可用性技術を融合することで、堅牢性の高いEメール環境を実現できます。このようなソリューションは比較的早期に実装することが可能です。お客様の環境とニーズに合わせて、既存の製品を適切に組み合わせることにより、ソリュ



シマンテック コーポレーション  
Chief Technology Officer  
マーク プレグマン博士

ーションとして提供することができるからです。

もう一つの革新性は、シマンテックとベリタスのコア技術を上手く融合させることによって、従来提供で

きなかったような新しい統合ソリューションを新たに開発・提供できるという点です。例えば、現状では、ウイルス感染を診断する場合は、すべてのディスクをスキャンする必要があります。ところが、アンチウイルスのシステムを、ファイルシステムに組み込むことにより、変更が加えられたところだけをスキャンすることで済みます。このように、シマンテックとベリタスの共有技術をベースに、セキュリティとストレージ管理、セキュリティとデータマネジメント、セキュリティとアプリケーションサービスマネジメントの融合など様々な分野で従来にない革新的な管理ソリューションを提供することが可能になります。

#### 情報の完全性について、もう少し詳しくお聞かせください。

情報の完全性を実現する技術的な要素として、3つがあげられます。まず一つは、情報のアベイラビリティです。これは、常に情報が適切に保護され可用性が保たれることです。もう一つは、ネットワーク攻撃によるサービスの停止、データの改竄、情報漏えいを防止すること。3つ目が情報にアクセスするアプリケーションそのものが常に保護され、アクセスの容易性と可用性を確保しながらパフォーマンスを維持することです。この3つがあって、初めて情報の完全性が実現されると考えています。

### 3段階の製品ロードマップ戦略

新生シマンテックは、今後どのような製品をリリースしていくのか、予定を含めてお聞かせください。

製品のロードマップ戦略としては、3つのフェーズで考えています。現在から2005年末までの第1フェーズでは、製品の相互運用性を図ることを中心に展開します。2006年前半までの第2フェーズでは、製品統合を中心に行います。共通ユーザーインターフェースの提供、ライセンスの共通化、統合サポートなど、インフラレベルにおける両社製品の統合です。この段階では、個別の製品というよりは、スイート製品の提供を考えています。2006年後半以降の第3フェーズでは、先程お話しした共有技術をベースにした新しい情報の完全性を実現するためのソリューション、アプリケーションコンプライアンス及びパフォーマンス管理ソリューションを本格的に提供していきたいと考えています。従来のサーバセキュリティとかストレージセキュリティではなく、トランザクションレベルでの情報の完全性を実現する管理ソリューションを考えています。

今お話しした製品ロードマップは、米国本社での製品リリースの予定です。日本市場では日本向け製品のプラットフォームの融合、テスト、さらには日本市場向けへの対応等を考慮して、時期のずれが生じる可能性があります。

### セキュアで可用性の高い弾力性のあるITインフラ構築を支援

新生シマンテックが、弊誌の主要読者でもあるNTTグループ企業に対し、どのような価値を提供できるとお考えですか。

キャリアビジネスやソリューションサービスプロバイダビジネスを展開するNTTグループ企業にとっては、常にセキュリティとアベイラビリティを同時に備える弾力性のあるインフラを実現することは絶対条件であると考えています。NTTグループ企業をはじめとする日本のお客様に対する新生シマンテックのもたらす価値というのは、情報の完全性、予期し得ない不測の事態への対応、サービスの継続性の維持、オペレーションの改善、コンプライアンス体制の確立・強化を実現するための堅牢性が高くスケーラビリティに富んだ、セキュリティ性の高いプラットフォームを提供することにあると考えています。しかも高いコスト効率を実現しながら、常にビジネスの要件を支えていくことを新生シマンテックは支援していくことが重要であると考えています。

日本国内にエンジニアリングセンター（JEC）を開設されましたが、その目的をお聞かせください。

新生シマンテックの持っているエンジニアリングスキルを直接お届けすることによって、製品に対する日本固有のニーズを吸い上げ、迅速に対応することと、日本のベンダー様

に対して品質の高いソフトウェア開発支援活動を行うことが最大の目的です。日本のIT業界は非常に革新的で先進的です。このような厳しい要件を持った市場に対して直接エンジニアリングスキルを紹介する場所を持つということは、極めて重要だと考えています。JECは、米シマンテックの製品開発部門の一組織と位置づけており、日本のパートナー企業様とともに日本語環境下での機能検証、日本語機能のポーティング、日本市場に最適なソリューションの共同開発を行っていきます。これまで、製品の日本語版の開発やシステ

ム検証は、米国中心で行われてきましたが、JECの設立により、これからは日本国内でその機能の一部を担うことが可能になります。また、米国本社に日本市場の要求をフィードバックするという重要な役割を担っています。

様々な製品及び技術力を持つ新生シマンテックにとって、レベルの高いコアなエンジニアリングスキルを直接お届けするというのはグローバル戦略の一環であり、要求条件の厳しい市場において同様のエンジニアリングセンタを逐次開設していく方針です。

ITの変化は、従来にも増して加速しています。ビジネスニーズ、マーケットの環境が激変していますし、セキュリティ脅威も変貌しています。こういった環境下で、ITのプロフェッショナルは、プラットフォームや製品スイートに対するソリューションを提供し、お客様が変化に迅速・適切に対応できる環境を整えられるようにするべきであると考えています。

新生シマンテックは、今後もお客様がIT環境の激しい変化に適切に対応できるように支援し続けます。

## 日本市場向け新ソリューションの開発を支援する 開発・検証センター「JEC」を東京に開設

### 高い技術力と高水準の設備を備えた開発・検証用のセンター

シマンテックは、去る8月10日、日本のユーザーに向けた新ソリューションを開発・市場投入するための開発・検証センター「シマンテック ジャパン エンジニアリング センター」(以下、JEC)を開設した。

JECは、シマンテック コーポレーションが注力している地域・市場へ継続的な投資を行うというグローバル戦略の一環として設立された。JECを設立することで、日本のユーザーに、日本語環境・OS上や国内ベンダーが提供している機器上で検証済みの製品を導入・利用できると

いうメリットを提供するほか、日本語環境固有の状況をより深く理解し、最適なソリューションの開発を支援することが狙いだ。また、国内

ベンダーやパートナー企業、さらにユーザーは、高い技術力と高水準の設備を備えたJECからの最新情報の提供により、新製品が市場にリリー



写真1 JECのオープニングセレモニー



各メーカーのサーバやストレージ製品が集められている。  
写真2 JECのサーバ、ストレージ群



すべてのネットワークケーブルがここに集約されている。  
写真3 JECのネットワークゲートウェイ

スされる前に、その製品の持つ先進技術や機能を知ることができるというメリットが得られる。

JEC オープニングセレモニーのため来日したマーク ブレグマン CTOは、JEC開設について、「積極的に日本市場固有の製品要求を吸い上げ、品質の高いソフトウェア開発支援を行う」と述べた。

JECは

- ・ ディスクアレイ、テープドライブなどの検証やデバイスドライバの開発
- ・ 製品品質の維持及び品質における機能テストの実施
- ・ 機能検証 ( Proof Of Concept ) の実施

といった3つの機能に加え、共同開発によるジョイントソリューションや製品開発支援機能を提供する。

### すでに10製品以上の検証やドライバ開発の実績も

JECは、国内のベンダー、及びパートナー各社との協力体制のもと、国内市場のニーズを取り入れ、日本語環境下での機能テスト、先進のソリューション開発を支援する。これによりシマンテックのパートナー企業も、日本語環境における各社のハードウェアおよびソフトウェアの検証を製品開発ライフサイクルの早い段階で実施することが可能になるため、日本市場のニーズに合わせた効率的な製品開発が可能となる。

JECディレクターのパーポータス氏は、JECの取組みについて、「すでに、ディスクアレイやテープドライブなどのストレージ製品との検証やデバイスドライバの開発を実施し、すでに10製品以上の検証やデバイスドライバの開発を完了している。さらにバックアップソフトウェア『VERITAS NetBackup 6.0』の日本市場への製品投入に合わせて、600項目のテストケースを策定し、日本語環境下で300項目を実施している」と述べた。なお、シマンテックは検証項目すべてに合格した製品に対しては、検証済みの認証を



シマンテック コーポレーション  
ジャパン エンジニアリングセンター  
ディレクター パーポータス氏

付与するという。

同社では、今回、ベリタスソフトウェア本社内に開設した統合ラボ環境を第1フェーズとし、次のフェーズではさらに多くの機器を導入し、セキュリティ製品の検証能力を強化した、より統合的な新たな施設を開設することを計画しているという。その際には、現在の荷重制限や空調制限を拡張し、重量の大きい機器の大量導入や、JEC統合データセンターとパートナーの検証センターとをネットワークで接続してサイト間テストを行えるようにしていくほか、開設当初のストレージ関連ソフトのサポートに加え、セキュリティ関連製品のテスト実施と検証環境も用意し、全製品に対応できるようにし、パートナーやユーザーからの要求に合わせた形の運用を図る予定という。

#### お問い合わせ先

株式会社シマンテック

〒150-0031

渋谷区桜丘町20-1

渋谷インフォスター17F

TEL : 03-5532-8241

E-mail: vrtsj-sales@veritas.com

Symantec VISION \* Xchange 2005

2005年11月1日(火) グランドハイアット東京 [www.symantec.com](http://www.symantec.com)

Information Integrity セキュリティとアベイラビリティの融合、その先に